

一般財団法人食品産業センター

理事長 村上 秀徳 様

平成 30 年度栄養改善ビジネスの国際展開支援事業

「ベトナムにおける啓発型健診と栄養改善プログラム事業の展開」に関する調査研究

委託事業実績報告書

平成 31 年 3 月 15 日

花王株式会社 安川拓次

平成 30 年度栄養改善ビジネスの国際展開支援事業

「ベトナムにおける啓発型健診と栄養改善プログラム事業の展開」に関する調査研究

委託事業実績報告書

平成 31 年 3 月 15 日

1. 第 1 回現地調査報告

出張先：ベトナムハイフォン市予防医療センター、進出日系企業他

日程：2019 年 1/23（水）～1/26（土）

目的：1.啓発型健診のベトナム展開構想の策定に向けての情報収集

1)ベトナム健康保険制度の概要把握

2)予防医療ニーズの把握

3)職域での健康診断の実情

4)予防医療関係者とのパイプづくり

2.2次調査（2/25～3/1（予定））に向けての環境整備

出張者：弘前大 COI 社会実装統括 安川拓次（花王㈱エグゼクティブフェロー）

弘前大大学院医学研究科ヘルスマネジメント学講座 和田啓二（記）（現地コーディネーター三正工業㈱飯島氏同行）

<総括>

経済成長の著しいベトナムは、若年従業員が多数を占めるものの、日系企業においては健康経営の観点及び現地医療実情から職域での生活習慣病、感染症の予防医療ニーズが大きく、啓発型健診の受容性が高いことを確認した。JICA 草の根運動として香川県が取り組んできた学域の予防事業（学童過体重に起因する糖尿病対策(2019 年 3 月終了))にて食事改善、運動習慣定着が必要であり、そのための健康教育が不可欠であることを行政（予防医療センター）も認識している。職域、学域、地域が有機的に連動する啓発型健診の事業展開の可能性を確信した。今後、現地ニーズに即した健診項目の選定、健康教育内容及び現地仕様の健康増進プログラム開発し、現地行政、医療機関、商工会議所等との連携を図り、予防医療としての啓発型健診事業の有用性を検証したい。

第 2 次調査では行政への具体的施策提案及び医療機関（医科大学）との情報交換による課題抽出、また実現に向けての多くの日系企業とコンタクトしたい。啓発型健診がベトナムの職域における医療費低減、生産性向上、また学域での健康度改善を成果として示すことで、本事業がアジア健康構想の具体的施策となることを日本国行政府（内閣府、厚生省、経産省、農水省、文科省）にアピールすべく戦略立案を行う。また本事業展開

にはソリューションとなる学域、地域、職域の食事改善に関連する新たな食事・栄養改善をテーマとする新たなヘルスケア産業の創出を前提にして NJPPP との連携を深めることが得策であると考える。

<情報収集及び意見交換>

1. ニチアスハイフォン(株)

訪問日時：1/24（木）9:30～10:30

面会者：川崎社長、Ngo Thi Minh Thu（人事部 スーパーバイザー）

- ・職域における啓発型健診に興味を示された。若いベトナム人社員が健康教育を受けてヘルスケアのための行動変容を起こすためには何らかのインセンティブが必要ではないか。
- ・開発した啓発型健診の教育は各人の結果に基づくものであり、私事化、見える化がポイントとなる。

2. 野村ハイフォン工業団地開発会社

訪問日時：1/24（木）11:00～12:00

面会者：新井社長、上野ジェネラルマネージャー

入手資料：野村ハイフォン工業団地進出企業リスト、工業団地地図

- ・ベトナムの医療機関の信頼性が低い。他のASEANN 諸国、中国に劣る。しかし国民の健康意識は高く、日本に対する信頼性は高いので日本オリエンティッドの健診であれば受容性は高い。
- ・診療所のレベルは低く、数も少ない実情を考えると「予防」コンセプトはニーズに合致する。
- ・啓発型健診の特徴である包括性、即時性、啓発性のコンセプトは良い。
- ・健診のために就業時間中に外出することは難しいので、検診車による健診、教育であれば実現できるのではないか。
- ・ソリューションとなるランニングは路面環境が悪く、実行することは難しいのではないか。
- ・ベトナム人気質として熱しやすく、健診及びその後ヘルスケアの取り組みをイベント化することは効果的。

3. ハイフォン市予防医療センター

訪問日時：1/24（木）14:00～15:30

面会者：Phng Anh Hoa（フン・アイン・ホア）副所長、Dong Trung Kien（ドン・チュン・キョン）副所長

入手資料：香川県 JICA 事業実績プレゼン資料（ベトナム語）

- ・弘前大 COI が展開する岩木健康増進プロジェクト及び社会実装施策となる啓発型健診に賛同する。

- ・ベトナムでは生活習慣病である高血圧と糖尿病対策が課題である。
- ・香川県の小学生を対象とした肥満対策は2つの小学校で実施し、48%（2007年に設定された18歳以下の基準）の肥満率であり、血液検査による血糖値から深刻な状況であることが判明した。香川県とのプロジェクトにて食事教育及び給食メニュー改善を行った結果、肥満率が2%改善された。
- ・次回2次調査のアポイントに際し、あらためて弘前大より香川県を通じてハイフォン市予防医療センター訪問及び協議を中央人民政府医務局へ申請し、厚生局を経て手続きを行っていただきたい。その折、弘前大と予防医療センターの面会目的、協議内容の合意書（事前に予防医療センターと調整）を医務局に提出すること。テーマは学域の小学生への健康教育を契機とした地域・職域の成人の高血圧、糖尿病予防を目的とした啓発型健診を一案とする。

4. LIHITLAB. (株)

訪問日時：1/24（木）16:30～17:30

面会者：後藤文宣 社長

- ・ベトナムと日本は生活習慣、食事文化が異なるが、日本で開発された啓発型健診はベトナムでも有効なのか。また日本人を対象にして得られたデータによるビッグデータ解析は意味があるのか。
→健診後の生活習慣改善提案や食事指導はベトナムへ仕様に開発する必要があるが、メディカルな事象に違いはない。日本で得たビッグデータ解析も有用であると考えているが、最終的にはベトナムで行う健診データを蓄積し、解析検証すると共に有効性を高めていきたい。
- ・職域の啓発型健診を実施するには、外出するのではなく社内会議室等が好ましい。
- ・ベトナム人の食生活（ライスペーパー、フォー、野菜、魚中心）、運動環境（公園内施設等）、休息（昼寝）に問題はないように見えるが、実際は決して健康であるとは言えない。
- ・社員平均年齢は30歳前後で女性が約7割を占める。出産等で退職するケースが多く、人員確保の観点では経営上の課題である。
- ・啓発型健診により医療費が抑制されることは好ましい。
- ・ベトナム人のヘルスケア意識は高く、日本に対する信頼性が高いので、日本で実績のある健診であれば受け入れ性が高いと思われる。

5. 飯山精器ベトナム(株)

訪問日時：1/25（金）9:30～11:30

面会者：神善治 工場長（人事保健担当同席）

入手資料：定期健診項目、費用、健診結果一覧、社内食堂メニュー

- ・年に一回の定期健診は行っている。要受診者（B型肝炎ウイルス感染者等）、

要保健指導者に対しては書面の結果通知のみである。定期健診で病気を見つけても本人に知らせるだけ。

- ・入社時には問題がなかったがB型肝炎に感染していることが定期健診で判明した。会社からの受診勧奨等もなく本人は通常勤務している。
- ・以前、明らかに体調が優れない社員（顔色が悪く、長期間の咳が続く）に、会社費用（非公式）で受診させたことがある。結果、肺炎であったが、その後投薬により治癒した。給与は2.5万円/月程度でありエンゲル係数も高く社会保険はあっても、どうしようもない状況でなければ受診はしない。
- ・病院、診療所のレベルが低すぎる。救急車は有料であり、ベッドも有料である。日本人の場合には、支払いに問題ないとして、黙っていても個室に入れてくれるが、現地の方は廊下に放置されたり、二人で1つのベッドであることも珍しくない。また付き添いがいないと食事を取りに行けないので食事もできない。
- ・治療費は先払いであり、保険での払い戻しは後になる。十分な現金がないと受診ができない。
- ・以前ドイツ人医師の病院があったが、賄賂受け取りが規制で厳しくなった結果、閉院して帰国した例があった。
- ・ベトナムの医療費は個人窓口支払い20%である。給与の2.5%は保険料として支払っている。
- ・従業員51名（内女性10名）で2交代勤務を行っており、昼食は食堂にて1食120円程度の昼食（調理師が週次主菜、副菜、デザート等をトレーにて提供。ご飯（60円/1kg=10人分）は食べ放題）を提供し、夕食は即席ラーメンを提供している。
- ・ヘルスリテラシーを高めることが期待できる啓発型健診を是非とも取り組みたい。（神工場長の奥様は看護師であり、工場長実体験（喫煙による肺疾患）もあり見識が豊かである）
- ・多くの日系企業に本事業を紹介するのであるならば、商工会議所（JCCI）の月度（第三月曜日）会議を活用するとよいとの提案を得た。（ハイフォン市内日系企業の80%程度は出席する）

6. 協和グループ ㈱

訪問日時：1/25（金）13:30～14:30

面会者：若井 販売部マネージャー

- ・従業員数350名（鉄鋼製品製造 3交代勤務）
- ・社内健康づくりとして日勤者には、毎朝ラジオ体操を行っている。ベトナムでは外でスポーツすることは一般的ではない。
- ・昼食はケータリングサービスで提供。2月からは社内食堂で社食提供。採用時

のアピールとなる。

- ・健康診断は年に一回。工場に検診車来て健診を行う。
- ・健診結果はペーパーでコメントをつけて返すが、二次受診は本人判断。多くの場合、処方箋がなくても薬局で薬剤師より症状に合う薬を購入して対処している。
- ・健診結果に基づき、生活指導、食指導などはない。
- ・従業員は、健診を義務として受けており積極的に行ってはいない。仮に啓発型健診を実施するのであれば、受診自体が楽しいイベント仕立て（例えば組合活動として）にするのが良い。

<今後の対応>

1. 第2回調査に向けて

- ・予防医療センター、医科大学との正式な面会に向けて、これまでの JICA で実績ある香川県を通じてベトナム行政府（外務局、厚生局）に面会目的を明確にして申請を行う。
- ・予防医療センターとの面会目的、具体的な協議事項を明確にするための合意書を作成し、外務局を通じて提出する。
- ・日系企業との接点を多くとる目的から商工会議所とコンタクトして 2/25 夕刻のセミナー開催の可能性を検討する。

2. 第2回現地調査報告

出張先：ベトナム国立栄養研究所、ハイフォン医科薬科大学、ハイフォン市予防医療センター、日本商工会議所ベトナム支部定例交流会、VSIP 日本代表オフィス、進出日系企業他

日程：2019年 2/25（月）～3/1（金）

目的：1.ベトナムにおける啓発型健診の現地実施体制の構築

2.職域健康づくりセミナー開催（日本商工会議所ベトナムハイフォン支部所属進出企業対象）

3.啓発型健診実施候補企業の選定

出張者：弘前大学医学研究科 中路特任教授、村下教授、徳田助教、和田助教（記）

弘前大 COI 社会実装統括 安川拓次（花王㈱エグゼクティブフェロー）

㈱食品産業センター 成田海外室長、山口海外室次長

（現地コーディネーター 三正工業㈱飯島氏同行）

<総括>

1次調査(2019年1月)を踏まえ、経済成長の著しいベトナムにおいて弘前大学 COI が開発している啓発型健診をベトナム国立栄養研究所、ハイフォン医科薬科大学を巻き込んでハイフォン予防医療センター主体となって実施できる現地体制の構築を図った。また、この啓発型健診の認知獲得を図るべく現地進出企業を対象とした「職域健康づくりセミナー」を開催し、健康経営の観点からその有用性をアピールした。更に1次調査時に訪問した企業にて具体的な健診内容を説明し理解を得てニチアス株式会社、飯山精器株式会社、ZEON 株式会社を実施候補企業となった。

今後の実施に向けて、①現地に合わせた健診項目、教育啓発ビデオ、フォロープログラムの設計と実施体制、②健診で使用する機器の日本からの持ち込み可否および調達方法、③将来の現地主体の健診を実施するための体制および人材の育成方法、などの検討によりベトナム向けの標準化保健プログラム開発を推進し、2019年度中の啓発型健診トライアルおよびその後の継続実施を実現させたい。

尚、今回訪問が適わなかった保健省にはハイフォンと姉妹都市であり学域の生活習慣病の予防事業で実績のある香川県を通じて、ベトナム外務局を経て改めてコンタクトし、「新たな啓発型健診による生活習慣病の予防管理」をオフィシャルな公的事業とすべく調整を行う。

<情報収集及び意見交換>

1. 国立栄養研究所

訪問日時：2/26(火) 10:00~12:00

場所：48B, Tang Bat Ho Street, Hanoi

面会者：Dr.Le Danh Tuyen(Director), , Dr.Tran Khanh Van, Dr. Nguyễn Song Tú

- ・金沢学院大学が実施している VINEP (ベトナム栄養制度創設プロジェクト) 研修等で日本との交流が深く、また大阪大学は共同研究(「薬剤耐性菌発生機構の解明と食品管理における耐性菌モニタリングシステムの開発」)を行い日本人研究者が滞在している。
- ・生活習慣病予防には栄養教育が必要であり、特に高血圧、肥満対策として国内に広めていきたい。ヘルシーメニュー作成を共同で行いたい。
- ・小学校では校庭は狭く、運動授業は週2回30~40分程度であり子供達の運動不足は否めない。
- ・ハイフォン市予防医療センターとは人材交流もある。今回弘前 COI が導入を試みようとしている啓発型健診は大変興味深い。今後ベトナムにおける栄養・食事改善プログラム開発との連携が期待できるであろう。所内に海外交流キーパーソンがおり、今後コンタクトパーソンとして情報交換等を行える環境が整っている。
- ・今年5月に日本で栄養・食糧学会(5/17-19)もあり、日本の国立健康栄養研には訪問予定である。

→5月下旬には岩木健康増進プロジェクトを開催する。都合がつくようであれば是非ご視察頂きたい。

2. ハノイ「ショッピングモール」視察

- ・イオン社は日本国内と同様にハノイ市内に同一コンセプトの巨大な敷地を有するショッピングモールを展開している。モール内には多くのテナントがありフィットネスクラブ「ルネサンス」も出店している。啓発型健診のヘルスプロモーションとして運動プログラム重要であり、休が国内で展開しているモールウォーキング等を実施するに際し改めてコンタクトしたい。
- ・敷地内にはイベント開催等に相応しいスペースを有している。

3. ハイフォン医科薬科大学

訪問日時：2/27（水）10：30～11：30

場所：ハイフォン医科薬科大学会議室

72A Nguyen Binh Khiem Street, Ngo Quyen, Hai Phong

面会者：Assoc. Prof. Duong Thi Huong, MD. PhD、A/Prof. Nguyen Van Hung, MD. PhD 他

- ・同大学は創立40周年を迎え、7学部（医学、予防医療、栄養、看護、歯科、家庭医療、伝統医療）で学生数7,000名。
 - ・日本とは歯科分野で岡山大学歯学部、栄養学分野で金沢学院大学との連携がある。
 - ・啓発型健診は予防医療、公衆衛生、家庭医療に通じるものであり大変興味がある。特に高血圧、肥満、糖尿病は社会課題であり、現在ハイフォン市がヘルスプロモーション施策を提案しようとしており、今回の新たな健診はタイムリーである。
 - ・大学の使命は教育と研究であるが、住民の保健活動という現場は学生達の訓練場であると認識している。予防医療センターの健診も学生は研修として手伝いもしている。新たな健診をハイフォン市で行う場合にも協力は可能である。
 - ・NINとは同大学の卒業生が多く勤務しており連携は密である。また、ハイフォン市の体育大学との連携も有り、今後この新たな健診をハイフォンで展開するには多くのスタッフ、機関を集めることも可能である。
- 今後は、国際交流担当の Assoc. Prof. Duong Thi Huong 先生を窓口として直接コンタクトしていく。

4. ハイフォン予防医療センター

訪問日時：2/27（水）14：00～15：00

場所：No.21 Le Dai Hanh Street, Hoang Van Thu Ward, Hai Phong

面会者：Dr. Do Manh Cuong（所長）、Phng Anh Hoa（フン・アイン・ホア）副所長、Dong Trung Kien（ドン・チュン・キョン）副所長

- ・啓発型健診は政府が推進するヘルスプロモーションプロジェクトのコンセプトに合致する。是非とも提案される職域・学域健診そして将来は地域健診への展開を

共同で展開していきたい。

- 予防医療センター職員は総勢で84名在籍しているが、本プロジェクトには栄養課、地域医療チームなどが健診実施のための研修を受けさせてもらい担当者としてほしい。
- 具体的な進め方は？
→ 日系企業の職域で2、3社まずトライアルを行い、多くの方々にご視察頂き、その有用性を実感頂きたい。
- 最終ゴールは？
→ 本健診がベトナム全土に普及し、ベトナム国民の寿命延伸、国家繁栄に貢献したい。
- 学域への展開は？
→ 本健診のメインコンセプトは、健康教育であり特に小学校における健康教育の実践には教育省との連携が必要となる。この点については香川県とのプロジェクト事例をもとにぜひご指導頂きたい。
- 具体的に我々はまず何をすればよいか？
→ 来年度実施する啓発型健診のトライアルについては、具体的な健診方法、使用する検査機器、実施時期、スタッフ育成等に関する事業計画案を作成し、提案する。

5. 飯山精器㈱

訪問日時：2/28（木）08：50～09：30

場所：飯山精機ベトナム事務所

No.5, RBF D5, East West Road, VSIP Hai Phong, Duong Quan commune, Thuy Nguyen District, Hai Phong

面会者：神善治 工場長

- 従業員総数は54名であり、年齢は20代後半から30歳前半が大半だが健康意識は高い。自分の健康状態が分かる啓発型健診を実施してみたい。
- 具体的な実施方法、スケジュール等を示してもらいたい。また費用は発生するのか。
→ 追って具体的な事業計画案を提示する。また、基本的に今回はトライアルであり費用発生はない。
- 健診は工場内の食堂や会議室スペース等で行う予定である。（食堂約10×15㎡）
- 健診は就業時間に関係なく実施できるので、福利厚生制度の一環として実施したい。具体的にはベトナムでは5月、9月に連休があり、社員旅行等も計画されておりそのタイミングで実施することが望ましい。
→ 本件について、できれば長野県本社を訪問し本施策の目的、意義等を説明したいと考えている
- 現地スタッフ向けに資料を頂けると有難い。

→啓発型健診のベトナム語紹介資料を追って送付させて頂く。

6. ZEON 株式会社

訪問日時：2/28（木）09：40～10：00

場所：Zeon Manufacturing Vietnam Co., Ltd.

No.109, Road No. 10, VSIP Haiphong, Tan Duong ward, Thuy Nguyen
District, Hai Phong

面会者：金子雄一郎（General Director）

- ・ベトナムは職域の定期健診が義務化されており、年1回は行っている。年2回を行うことが望ましいとあるが、その意味はどのようなことなのか。
→取り組み結果を確認し、モチベーションを保つのは望ましいという意味。必ずしも年2回行わなければならないものではない。
- ・従業員が300名程だが、全員を対象とすることは場所、時間、費用の面で難しい。希望者対象で実施するとした場合、どの程度の人数となるのかを調べて見たい。
- ・個人的には実施したいと考えているが希望者人数を踏まえ、日本本社に確認したい。

7. VSIP

訪問日時：2/28（木）10：10～10：40

場所：VSIP Hai Phong Co., Ltd

VSIP Hai Phong Township, Industrial & Service Park, An Lu Commune, Thuy
Nguyen District, Hai Phong

面会者：Ms. Pham Thi Thuy Duong 他

- ・同工業団地はシンガポール資本で開設されており、日系企業は少ないが、進出している企業に紹介することは可能である。
- ・健診を行う際には費用発生はあるのか。
→まずはトライアルを行うが、その際には費用発生はない。最終ゴールはこのベトナムにおいてその有用性を立証し公的な健診としたい。
- ・我々に何を期待するのか？
→2019年度にはトライアルの健診を行う計画である。実施候補企業にVSIPの飯山精器(株)があがっている。実施することになれば、同団地の進出企業に是非ともご視察頂き、理解を得たいと考えている。その折には是非各社様にご案内頂きたい。

8. ニチアス株式会社

訪問日時：2/28（木）14：00～14：50

場所：NICHIASU Hai Phong Co., Ltd.

Plot C3-C6 - Nomura Haiphong Industrial Zone - An Hung Commune - An
Duong District - Hai Phong City

面会者：川崎社長、Ngo Thi Minh Thu（人事部スーパーバイザー）

- ・自分の健康は自分で守る時代だが、この啓発型健診は現在の社内健診の代替えとな

るのか。

→尿検査他、現在の特定健診の項目に含まれていて啓発型健診に含まれていないので既存の制度（日本）では代替えはできない。基本的に既存健診は「病気を見つける」ものであり、啓発型健診は「病気を発症させない」ものである。

- ・この新型健診を実施することによる企業メリットは何か。

→社員の健康度の向上による生産性の向上と医療費削減の効果が期待できる。

- ・ベトナムは企業での定期健診が義務化され、また医療費は社会保険として一部負担している（給与の5%）が、病気が減ったとしても企業の負担は減ることはないのではないか。

→日本の社会保険制度では医療費の増大は、結果企業負担額の増大（料率変更）となるが、ベトナムの制度を確認して別途報告する。

- ・やってみようとは思いますが、いきなり全員で実施するのは難しい。

→今回の健診はベトナムにおけるトライアルであり、必ずしも全社員対象で行わなくても問題はない。今回は20~30名程度で実施し、その有用性を確認したい。

- ・ベトナム人はプライドが高く、啓発型健診の重要なポイントとなる健康教育効果の発現が難しいかもしれない。

→健康教育のみならず、健診自体も受診者が楽しく、また、フォローアップも行い受診者が積極的に取り込めるものとしたい。

- ・まずは小規模（20~30名）で実施する方向で検討、調整しましょう。（川崎社長）

<職域健康づくりセミナー>

開催日時：2/27（水）18：10~18:40

開催場所：Sunflower International Village
35A, Van Cao, Ngo Quyen, Hai Phong

出席会社数：JCCIハイフォン支部（41名参加）

（概要）

中路教授より添付資料を以て出席各社駐在員に「新たな啓発型健診による生活習慣病の予防管理」と題して弘前大学COIが取り組む啓発型健診の有用性をプレゼンさせて頂き、事後懇談会の中でベトナム展開の可能性または実施した場合の期待される成果を説明した。

<今後の対応>

今回実施した2回の出張により、来期以降のベトナムハイフォン市における啓発型健診トライアル実施の目途をつけることができた。

今後の実施に向けて、①現地に合わせた健診項目、教育啓発ビデオ、フォロープログラムの設計と実施体制、②健診で使用する機器の日本からの持ち込み可否および調達方法、

③将来の現地主体の健診を実施するための体制および人材の育成方法、などの検討によりベトナム向けの標準化保健プログラム開発を推進し、2019年度中の啓発型健診のトライアルおよびその後の継続実施を実現させたい。

尚、今回訪問が適わなかった保健省にはハイフォンと姉妹都市であり学域の生活習慣病の予防事業で実績のある香川県を通じて、ベトナム外務局を経て改めてコンタクトし、「新たな啓発型健診による生活習慣病の予防管理」をオフィシャルな公的事业とすべく調整を行う。

3. 委託事業に要した経費の実支出額

本事業に要した経費の実支出額は（別添）経費報告書に記載した。

平成31年 3月 15日

東京都中央区日本橋茅場町 1-14-10

花王株式会社

エグゼクティブ・フェロー



